



2020年10月8日
東日本旅客鉄道株式会社

JR 東日本グループは 2050 年度の CO₂ 排出量「ゼロ」を目指します ～JR 東日本グループ「ゼロカーボン・チャレンジ 2050」～

- JR 東日本は、グループ経営ビジョン「変革 2027」において、「ESG 経営の実践」を経営の柱として掲げ、2050 年度の鉄道事業における CO₂ 排出量「実質ゼロ」を目指す環境長期目標「ゼロカーボン・チャレンジ 2050」を 2020 年 5 月に公表しました。
- 今回さらに、「ゼロカーボン・チャレンジ 2050」を JR 東日本グループ全体の目標とし、グループ一体となって 2050 年度の CO₂ 排出量「実質ゼロ」に挑戦します。
- これにより、「脱炭素社会」への貢献とともに、環境優位性のさらなる向上とサステナブルな社会の実現を目指します。
- 水素社会の実現に向けて、浜松町駅周辺エリアで燃料電池バス(JR 竹芝 水素シャトルバス)の運行を開始します。

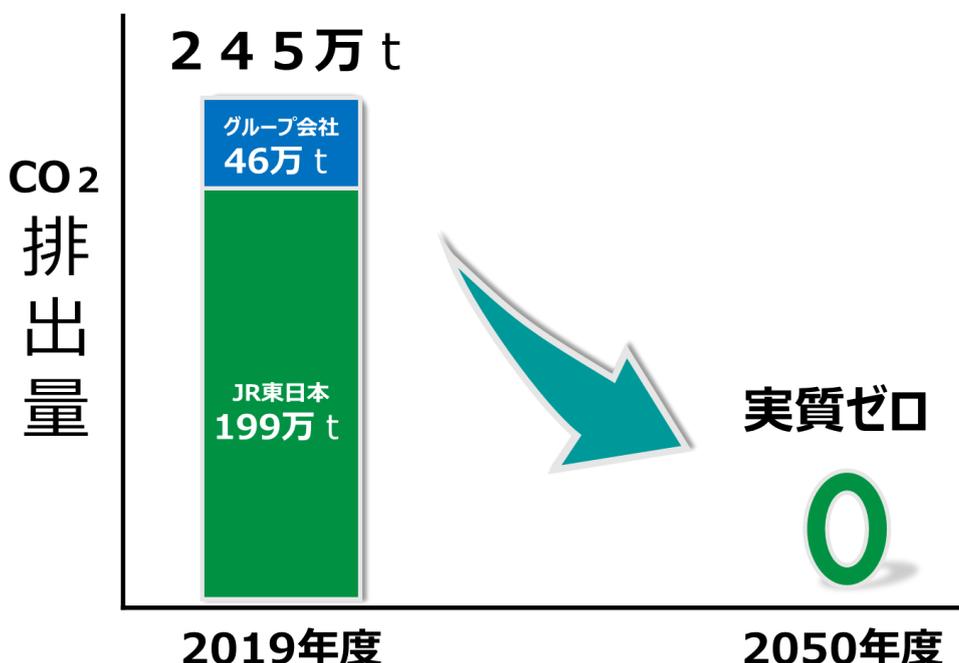
1. 環境長期目標「ゼロカーボン・チャレンジ 2050」について

将来にわたり環境優位性を向上し、社会に新たな価値を創造する企業グループであり続けるために、2050 年度の CO₂ 排出量「実質ゼロ^{※1}」を JR 東日本グループ全体^{※2}の長期目標に設定します。目標達成に向けた取組みを通じ、脱炭素社会実現に貢献します。

※1 「実質ゼロ」…排出される CO₂ と同じ量の CO₂ を最先端技術等により、吸収・回収・利用して排出量を事実上ゼロにすること

※2 「JR 東日本グループ」…海外含む 71 社

○2050 年度 CO₂ 排出量削減目標



2. 目標達成に向けた具体的な取組みについて

JR 東日本が有するエネルギーネットワークのほかグループの事業運営におけるさまざまなフェイズで、新たな技術の導入や再生可能エネルギーの開発推進、水素社会の実現に向けた挑戦などを積極的に進めていきます。

JR 東日本グループ全体の具体的な取組み（イメージ）

ゼロカーボン・チャレンジ 2050
ZERO CARBON - CHALLENGE 2050

② エネルギー・マネジメント
③ 燃料電池自動車・トラック
④ カーボンニュートラル LNG火力発電 CCUS
⑤ 水素発電
⑥ 水素ステーション
⑦ 燃料電池バス
⑧ 蓄電池車両
⑨ 燃料電池車両
① 太陽光発電
① 風力発電

①：再生可能エネルギー電源の開発推進と導入の加速

稼働中 秋田県 三種風力 7.5MW	稼働中 秋田県 峰浜風力 5MW	稼働中 八戸バイオマス発電所 約12MW
稼働中 秋田県 JR秋田下浜風力 2MW	開発可能性調査中 岩手県 大松倉山南部地域地熱調査 調査・開発中 秋田県 由利大内風力 約42MW想定 福島県 大滝山風力 約150MW想定 福島県 川内鬼太郎山風力 約40MW想定 福島県 馬場山風力 約36MW想定 福島県 神楽山風力 約78MW想定 茨城県 北茨城磯原太陽光 約17MW想定	宮城県 東北バイオフォー ドリサイクル仙台工場 約0.8MW
稼働中 Jバイオフォー ドリサイクル 横浜工場 1.8MW	稼働中 富岡復興メガソーラー SAKURA 30MW	

②：需給一体の「エネルギー・マネジメント」の実現

品川開発プロジェクト
における環境エネ
ルギーの導入

③：燃料電池自動車・トラックの導入推進

④：CCUS技術の導入

ボイラ 混合 分離・回収 CO2
ガス タービン 気体
CO2の利用・貯蔵
有効利用 圧入・貯蔵

⑤：川崎火力発電所における脱炭素化の推進

H₂

⑥：水素ステーションの開業

2020年
8月27日
高輪ゲート
ウェイ駅
近隣に開業

⑨：燃料電池車両の開発

2022年3月頃より鶴見線、南武線で
試験車両の実証試験を開始予定

愛称：HYBARI（ひばり）

⑦：燃料電池バスの導入

10月24日より
東京～竹芝周
辺で運行

⑧：蓄電池車両の展開

2020年度から秋田
県男鹿線にて順次
投入拡大

JR 東日本グループ全体の脱炭素化へ向けた推進イメージ

脱炭素社会
へ向けた
世の中の
シナリオ

フェーズ1
・水素利用の飛躍的拡大
・CCUSの技術開発と高付加
価値製品の製造

フェーズ2
・水素発電の本格的導入/大規模な水素
共有システムの確立
・CCUS技術の低コスト化

フェーズ3
・トータルでのCO2フリー
水素供給システムの確立
・CCUS製品の消費拡大

脱炭素社会へ向けた
JR 東日本グループの
推進イメージ

再生エネルギーの拡大

※経済産業省「水素基本戦略」「カーボンリサイクル技術ロードマップ」をもとに作成

3.水素社会の実現に向けた燃料電池バスの運行開始について

JR 東日本グループは、水素社会の実現に向けて、「WATERS takeshiba」のまちびらきに合わせ浜松町駅周辺エリアで燃料電池バス(JR 竹芝 水素シャトルバス)の運行を開始します。

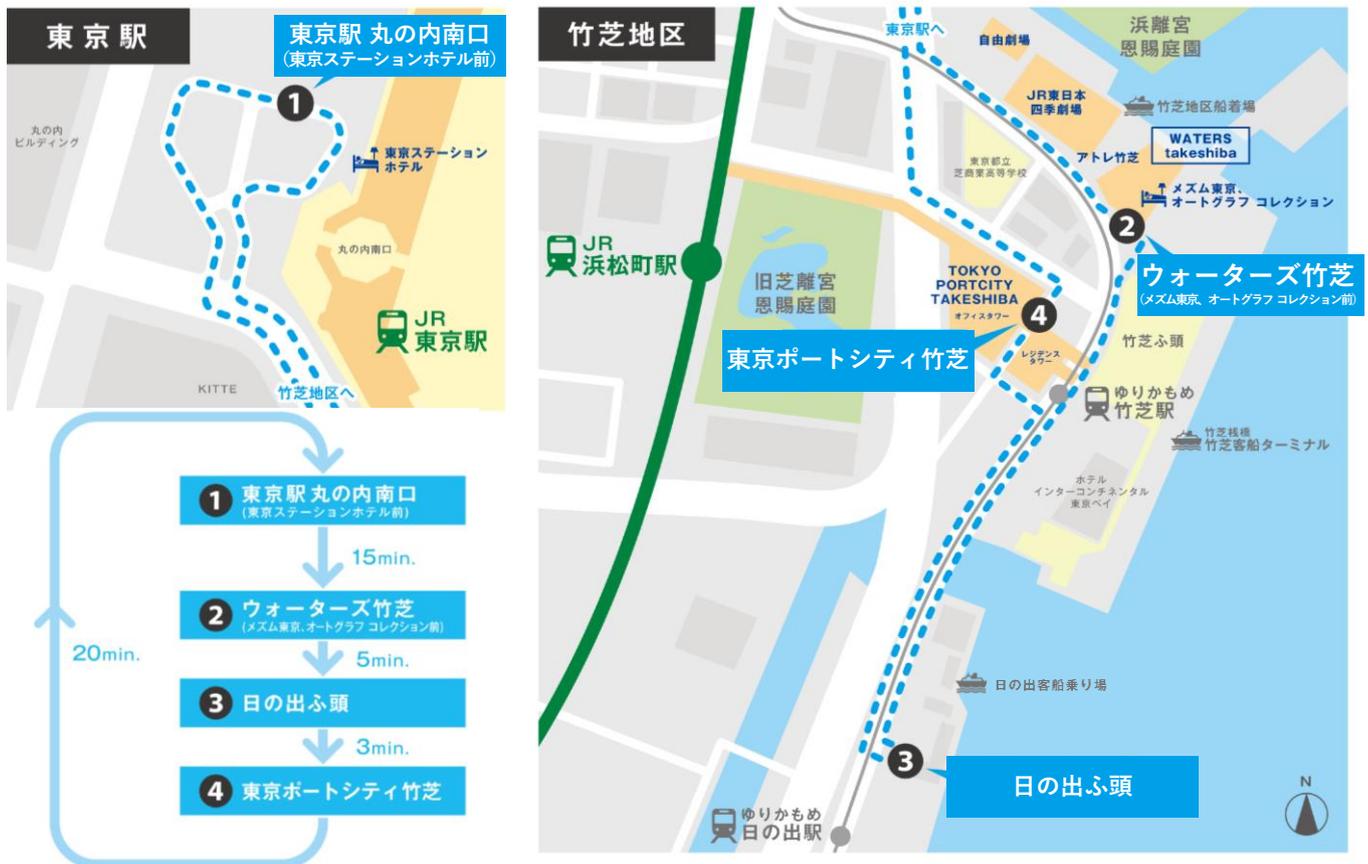
また、燃料電池バスには期間限定デザインをラッピングし、同日、出発式セレモニーを開催します。

【JR 竹芝 水素シャトルバス 運行計画】

- (1)運行期間：2020年10月24日(土)～2021年3月31日(水) (予定) ※¹
- (2)乗車料金：無料
- (3)運行ルート：東京駅丸の内南口～ウォーターズ竹芝～日の出ふ頭～東京ポートシティ竹芝を循環
- (4)運行本数：平日 1本/時間、土日祝日 2本/時間

※1 以降も運行を継続する可能性があります

「JR 竹芝 水素シャトルバス」運行ルート



【出発式セレモニー】

- (1)日時：2020年10月24日(土) 10:00～10:30
- (2)場所：東京駅丸の内南口付近
- (3)内容：主催・来賓挨拶、テープカット、出発合図等
- (4)来賓：外務省、国際広報センター 他(予定)

【車体のデザイン・特徴】

燃料電池バスは、「水」をイメージした青いデザインです。2台のうち1台に「SDGs デザイン」、もう1台に「ゼロカーボン・チャレンジ 2050 デザイン」を期間限定でラッピングします。

(1)SDGs デザイン

車体側面・後部へ SDGs ロゴ・カラーホイール等を表示します。



○「SDGs デザイン」拡大図



(2)ゼロカーボン・チャレンジ 2050 デザイン

車体側面と後部に脱炭素社会へ向けたイメージイラストを表示します。



○「ゼロカーボン・チャレンジ 2050 デザイン」拡大図



【主催者等】

(1)主催：東日本旅客鉄道株式会社

(2)後援：外務省・国連広報センター（SDGs デザインバスへご後援をいただいております。）